加古川市立加古川中学校 第３学年
令和５年９月１日(金)

進路通信

～ A compass for life 人生の羅針盤 ～ **特別号**

全国学力・学習状況調査の結果について

１．学力について

正答率（%）		
教科	全国（公立）	兵庫県（公立）
国語	69.8	69.0
数学	51.0	52.0
英語	45.6	47.0

令和５年４月18日と４月21日に行われた全国学力学習状況調査の個人票を２学期始業式の学活で返却しています。加古川中学校の平均正答率は、全国及び兵庫県と同程度ですが、数学については全国・兵庫県より高い正答率を示していました。

注意：文部科学省、加古川市教育委員会の方針により、各学校の正答率は、公表しないことになっています。

①国語

≪優れているところ≫

- 県や全国と比べて全体的に同程度であるが、特に意見と根拠など情報と情報との関係について読み取る問題の正答率が高く、情報を関連付けて考える力が身についていると考えられる。
- 古文の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直したり、原文と現代語の文章を対応させて内容を捉えたりする問題の正答率が高いことから、古典を読むための基礎的な技能は定着していると考えられる。

≪課題とされるところ≫

- 全国平均と比べて、記述式の問題の正答率が低くなっている。特に、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして書く問題の無回答率が高くなっており、書くことに苦手意識をもつ生徒が多いことが伺える。
- 文脈に即して漢字を正しく書く問題の正答率が低く、漢字の書き取りに力を入れて取り組む必要がある。
- 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握する問題の正答率が全国や県と比べて低く、文章の要点を捉える力に課題がみられる。

②数学

≪優れているところ≫

- 県や全国に比べて全体的に正答率が高く、特に「数と式・図形・関数」分野の平均正答率が高い傾向にあり、基本的な技能が定着していると考えられる。
- 記述式問題の正答率が県や全国に比べて高く、自分の考えを表現する能力に優れている。
- 文章から立式をして問題を解決しようと試みたり、式が表す内容を文章に起こして伝えようとしたりするなど、数学的な思考・判断能力が身についている。

≪課題とされるところ≫

- 「データの活用」分野の正答率がやや低い傾向にある。問題数が３問のみのため、誤差の範囲とも考えられるが、正答率が低い問題は累積度数や四分位範囲を求める問題であるため、この分野の知識・技能習得に関しては再度定着を図る必要がある。データを分析し、判断する問題の正答率は高いため、思考力に欠けているわけではなく、単純な知識不足と思われる。
- 思考・判断・表現に関する問題や記述式問題の正答率は県や全国平均に比べて高い傾向にはあるが、無解答率も県や全国同様に高いため、この無解答の層の苦手意識を払拭することが重要と考える。

③英語

≪優れているところ≫

- 全国や県の平均と比較して、ライティング問題に関して、差は見られなかった。特に、与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように、英文を完成させ

る問題は、県や全国平均より正答率が高い傾向で、「書くこと」の力が身に付いていることが伺える。
・時間の流れをしっかり捉えることで、未来表現を適切に書くことができている。また、人称や単数形を見極めることができているので、疑問文の書き方が定着している。
・「話すこと」においては、誤った表現はあるものの、コミュニケーションに支障をきたさない程度の英語表現で答えている生徒が多く、全国平均と比較しても、無解答率は低くなっているので、積極的に英語を話そうとする意識が高いことが伺える。

≪課題とされるところ≫
・全国や県平均と比較して、リスニング問題において、正答率が低くなっている。文章全体を通して、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取る問題に、苦手意識を持つ生徒が多い。
・出題された英文を読んだ後、その内容について自分の考えやその理由を書く問題で、無解答の生徒が多い。
・ライティング問題に対して、県や全国平均に比べて正答率が高い傾向にあるものの、無回答率が高く、書くことに苦手意識を持つ生徒が一定数いる。
・英語を話そうとする意識は高く、無解答率も低いが、聞き取った英語のやり取りが理解できず、何を答えて良いのか分からない状態になっている生徒もいる。その結果、間違った内容を答えてしてしまっている。

２．学習状況について　※生活面について

≪優れているところ≫
・多くの生徒が規則正しい生活を送れており、落ち着いた学校生活を過ごせている。
・学校に行くのは楽しいと感じている生徒が多い。
・自分のよいところを認めてもらっていたり、わからないことを教えてもらったりできると感じている生徒が多く、教師との関係性を良いと感じている生徒が多い。
・将来の夢や目標も持っている生徒の割合が高い。
・1 年生のころから ICT を活用しているため、授業でうまく活用できる生徒が多く、わからないところを自分で調べることができるなど、ICT が学習に役に立つと感じている生徒が多い。
・ICT を活用することによって、自分の考えを資料や文章、話の組み立てで工夫して発表したり、話し合いを通じて自分の考えを深めたり、広げたりできていると感じている生徒が多い。
・現在、地域の行事に参加しているという生徒の割合は全国と比べて低いが、地域や社会をよくするために何かしたいと感じている生徒の割合は高い。
・国・数・英に関して、学ぶことは大切だと考える生徒の割合は全国と比べて高く、学習意欲が高いと考えることができる。

≪課題とされるところ≫
・生活習慣について、朝食を食べていない、就寝・起床時間が定まっていない生徒の割合がやや高い。
・自分に良いところがあると思う生徒や、普段幸せな気持ちになると答える生徒の割合はやや低く、自己肯定感の低い生徒が一定数いる。
・半数以上の生徒が読書や新聞を読む習慣がなく、図書室や図書館の利用も少ない。

３．今後の取り組み

多くの生徒は、規則正しい生活習慣が身に付き、ルールやマナーを守り、学校生活を楽しいと感じながら生活をしています。また、いじめや困っている人がいれば助けたいと考えている生徒が多く、友人関係を大切に、充実した日々を過ごしていると思われます。ただ、相談しづらいと感じている生徒もいるため、教育相談等を活用して一人一人に寄り添った対応をしていきたいと考えています。

学習面においては、ICT を活用した授業をさらに発展させ、主体的・対話的で深い学びの実現に取り組み、学習の理解を深めていくようにしていきたいと考えます。記述式等、深く考える問題を授業の中でできるだけ多く取り入れ、深い学びにつなげていきます。また、英語を使用して互いの考えや気持ちを伝えあうなどの言語活動に力を入れて取り組みます。

家庭においては、スマートフォン等に時間を取られている生徒が多く、新聞や読書の習慣がない傾向であることから、社会の出来事などにも関心を持ってほしいと考えます。規則正しい生活習慣の確立や時間を上手に使っていくことを学校と家庭との協力で確立していきたいと考えます。